

# 二葉町防災新聞

編集・発行  
二葉町自主防災会

## 二葉町と罹災の歴史

二〇一〇年の高知市二葉町の世帯数は四三九。人口は七九四人。六五歳以上が三二七人(四十一%)、十五歳以下は五十七人です。(二〇〇五年度は世帯数四四六、人口は八一四人)高知市中心市街地ですが、「過疎化・高齢化」が一段と進行しています。

一九四六年(昭和二十一年)の昭和南海地震では、高知市下知一帯が地盤沈下し現在の二葉町も水没し、2ヶ月程度は浸水していたようでした。



一九七〇年(昭和四十五年)八月二〇・二一日台風十号の影響により土佐湾沿岸では異常な高潮が発生し満潮時と重なったため、海水は防潮堤や河川護岸を乗り越え決壊させた。高知市周辺一帯が水没し、当時の坂本市長がテレビで避難を呼びかけた。その後高知市政は、雨水対策事業を国の手厚い支援で実施、一時間雨量七十七ミリの大雨でも浸水しない地域になった。

## 南海地震の想定と被害予測

国道三十二号線(電通と五十六号線(土佐道路)が交差し、県道35号線も基点となり交通容量が多く、二葉町内を毎日通過している。幹線道路沿いは(共同埋設管)も終了。光回線とケーブルテレビ回線も敷設され便利な市街地です。



今後十年に高い確率で襲来する南海地震。二葉町での予想は「震度7、地盤は最大一・九五メートル沈下。プラス津波。二葉町全域は一年以上の長期浸水が予想される。」(二葉町は全域海拔〇メートル地帯です。)

## 二葉町防災会の結成と歴史

海抜〇メートル地帯で海に近い二葉町。周囲に自然地形の高台は皆無。耐震性のある公共建築物も皆無な平地です。下知市民図書館が地域内唯一の公共建築物。二〇一三年によく耐震性のある四階の建物に建て変わります。

二〇〇六年 十二月 二葉町自主防災会結成

二〇〇七年 防災備品購入。防災倉庫設置。防災世帯調査実施防災まちあるきの実施。 防災マップの作成

町内一〇箇所のマンション所有者と津波時一時待避所協定締結。鏡川大橋歩道部を災害時要援護者一時待避所として指定。(国土交通省土佐国道事務所認定)

二〇〇八年 神戸市長田区鷹取防災会との交流(現地訪問)

二〇〇九年 今治市立花自主防災会近隣自主防災会の共同訓練実施(青柳公園)

二〇一〇年 家具転倒防止講習会・防災タウンミーティング(2回)

二〇一一年 仁淀川町ー二葉町交流会発足。防災世帯調査の実施



\* 昭和二十一年(一九四六年)の昭和南海地震では二葉町地域は一メートル地盤沈下し、長期浸水しました。写真真ん中付近が二葉町付近です。

(二〇一一年六月五日・発行)

ブログ「二葉町防災新聞」参考。

<http://futaba-bousai.cocolog-nifty.com>